

1 幼稚園の教育目標

教育目標 豊かな心とたくましい体を持った子

- ・子ども理解に努め、一人一人の発達特性や個に応じた指導をする。
- ・遊びをひろげ、深める環境を構成する。
- ・社会の変化や地域の要請に応え、保護者との連携を密にして保育を進める。
- ・小学校教育との結びつきを図るため、地域の小学校との連携を進める。

2 重点目標 思いやりのある子 がんばりのきく子 挨拶のできる子

- ・健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を送ろうとする態度を育てる。
- ・他の人々と親しみ支え合って生活するために、自立心を育て人と関わり合う力を養う。
- ・自分の思いを言葉で表現しようとしたり相手の話す言葉を聞こうとしたりする態度を育て、言葉に対する感覚や言葉による表現力を養う。
- ・感じたことや考えた事を様々な方法で表現する事により、豊かな感性や表現力を養う。
- ・周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持ち、知ろうとしたりかかわりを深めたりしようとする態度を養う。
- ・教員が、一人一人の幼児との間に愛情と信頼の関係を築くとともに、幼児の心が開く接し方に心がけ、幼児の伸びようと姿を支えていく。

3 評価項目の達成及び取組状況（評価 A：十分達成されている B：達成されている C：取り組まれているが成果がやや足りない D：取り組みが不十分である）

(1) 指導領域の評価

評価の項目と主な観点	評価	評価の理由（成果や課題・改善策）	関係者評価
① 健康安全・体力の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・朝の持久走や運動遊び等による体力や運動能力の向上 ・健康で安全な生活をしようとする態度や習慣 ・様々な食べ物に興味を持ち進んで食べようとする意欲 	A	体力の向上については、重点目標でもあることから、職員の意識も高く、年間を通じて体力作りのための運動遊びができた。朝のマラソンや体操は、インフルエンザが流行したこともあり、少し回数が減ったが、各学年ごと鉄棒や縄跳びなどを通して体力向上を図った。外部の体操教室の影響もあるが、先生方の励ましや声かけによって、園児達の達成感や、意欲、自信につながっている。給食指導では「給食カード」の活用により、食べる事への意欲や、苦手な食べ物への挑戦、家庭での「食」指導にも役だっている。 火災や地震に備える避難訓練を年間計画に入れて取り組んできたが、普段から避難経路を意識した話などをしていく必要を感じた。	A

<p>② 人間関係・自立心</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものごとの善悪や決まりの大切さに気付いて行動する態度 ・友達の気持ちを大切にしようとする態度 ・人とかかわる楽しさを感じ、一緒にやろうとする態度 	A	<p>約束事やルールなど集団生活をする上で大切なことを理解させることに努めた。その上で友達との関わりを楽しむことにより、集団遊びが増え、友達と助け合ったり協力して一つのことをやり遂げようとする力がついてきている。トラブルがあった時は、子ども達に問いかけ、どうしたらよいかを考えさせたり、解決策を考えさせたりする丁寧な指導で、友達同士が思いやり、優しく接することができるようになってきた。思いやりの心も育っている。</p>	A
<p>③ 言葉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを言葉で伝えようとする態度と力 ・話を聞こうとする意欲や態度 ・読み聞かせを楽しむ 	A	<p>信頼関係を築き一人一人の良さを認める中で、それぞれが言葉で自己表現できるようになってきた。また、読み聞かせや話を聞く姿勢は定着してきた。集中力、聞く力、見る力がついてきている。言葉遣いが気になる子もいるが、その都度丁寧な指導を心がけ、子どもが納得のいく形で正しい言葉遣いができるようにしてきた。</p>	A
<p>④ 表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動に興味や関心を持って取り組み心を動かされる姿 ・自分の思いを自分の方法で楽しみながら表現する喜び 	A	<p>音楽や製作等では表現を伸び伸びと楽しんでいる姿が見られるようになってきた。製作では様々な素材を用意することで、自分で考え、想像し、意欲的に取り組む子どもが増えてきた。今後更に豊かな表現力を育てるために、保育者が教材研究を重ね、材の活用、提示のタイミング等、表現の発展に取り組んでいきたい。</p>	A
<p>⑤ 環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内外の動植物に興味関心を持って接しようとする態度 ・野菜や花の成長を喜び、世話をしようとする態度 ・環境とかかわって遊んだり遊びをつなげたりする態度 	B	<p>プランター栽培や花の成長を楽しむ子が増えてきたが、まだまだ身近なものとなっていない。自然環境の少ない本園では意図的に園庭や身近な動植物に関心を寄せる工夫をしていかななくてはならない。保育者もそのことをよく理解しており、今後もビオトープや畑での栽培等を利用し、自然に親しむ心情を培っていきたい。</p>	A

(2) 園の重点目標や活動についての評価

<p>1. がんばりのきく子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困難なことがあっても最後までやり遂げようとする姿 	A	<p>重点目標でもあるこの項目は、保育者の肯定的な意見が多かった。保育者の意図的な言葉かけによって、がんばろうとする気持ちが育ち、達成することによりさらに自己肯定感も育ってきている。挑戦する場を意図的に設定し、頑張る気持ちをさらに高めていきたい。今後も学年での計画的な指導や継続的な指導、職員同士の連携した指導などにより、諦めずに最後まで頑張ろうとする気持ちを育てていきたい。</p>	A
<p>2. 思いやりのある子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達のことを気遣い友達の気持ちを考えて行動する姿 	A	<p>保育者の評価が昨年度より6ポイント向上した項目である。心を育てる指導を継続に進めてきており、「困っている子に声をかける」「友達に優しく接する」「友達を応援する」子が増えてきている。集団生活をする上で、最も重要な資質でもあるので、今後も重点項目としてさらに指導を進めていきたい。</p>	A

<p>3. あいさつのできる子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分から挨拶したり挨拶されたら挨拶を返したりする姿 	A	<p>全体的にあいさつのできる子が増えてきている。担任以外の保育者や保護者にも気軽にあいさつができるようになってきた。ただ、個人差があり、まだ恥ずかしがる子もいるので、粘り強く声かけをして、あいさつの気持ちよさを体感させていきたい。保護者の協力も不可欠で、家庭と連携しながら指導を進めていくことが大切である。今後も継続的に指導を進めていくことが必要である。</p>	A
<p>4. 行事の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な行事での園児の姿、行事の計画・運営等の評価 	A	<p>行事の目的、ねらいを明確にすることで、行事のたびに園児達は成長してきた。準備の段階から子どもの予想される動きや思いを想定し、細部にわたる気配りをしてきた。早めの計画、役割分担により昨年度よりも協力体制の中で進めることができた。園児達も、様々な行事に意欲的に取り組み、粘り強く、継続的に頑張る姿が見られた。達成感を味わうことにより次の行事への意欲も見られた。今後も、職員全体の協力体制の中で進めていきたい。</p>	A
<p>5. 個に応じた指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園児の理解に努めそれに応じた指導ができたか 	A	<p>朝礼や終礼時に、病気欠席やお迎え方法の変更など、報告が必要な園児についてきめ細かく報告がなされている。そのため、学年に関係なく保育者の指導が行き届き、一人一人を大切にしようとする職員間の共通理解がなされている。支援の必要な園児に対しても、関係機関や保護者との連携に心がけ、職員全体で共通理解に努めてきた。これにより、園全体で援助が必要な子を見る事ができるようになった。</p>	A
<p>6. 地域の施設や人材、自然を生かした指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域理解に努め地域を生かす指導ができたか 	C	<p>今年度も、園外保育の不足を反省する保育者の声があった。また、園外の施設のことをもう少し勉強して、出掛けやすい場所や行き方を研究する必要があるとの指摘もあった。遠足や通園バスによる園外保育はなされているものの、もう少し意図的に園外に出かける指導を考えたい。今後は、計画的に時間を確保し実施していく事が課題である。</p>	B
<p>7. 保護者への対応や連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者への連絡や対応、連携が適切であったか。 	B	<p>保育者は保護者との連携の大切さを常に意識して取り組んでいるように思う。電話連絡や送迎時の直接対応では和やかな中にも事実を伝え、どうしたらよいかを共有している、そのことにより保護者からの信頼も生まれている。また、「園だより」に園全体の行事計画や各学年の保育計画、各家庭への依頼事項等を掲載し保護者の理解を図ってきた。保護者への連絡は細やかで、この結果、保護者の教育アンケートでは昨年度より高い評価となった。</p>	B
<p>8. 園内研究や研修の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導力や保護者への対応力向上等の研修ができたか。 	B	<p>日々の保育活動の中で若手職員には先輩保育者から指導があり、研修につながることが多いが、改まった研修会(園児理解の方法や特別支援教育など)やテーマを決めての研修会は不足している。ブロック研修や夏の振興協会主催研修及び初任者研修には積極的に参加できたが、今後、時間の確保は難しいが、全体での意識統一のためにも可能な限り実施していく必要性を感じている。</p>	B

<p>9. 校務分掌の適切さ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事量と人数が適切で効果的な分掌となっていたか。 	<p>B</p>	<p>昨年度より少ない人数の中で、今年度はさらに職員間で協力しあう必要性を感じた。保育者もよく理解しており、「係だけに任せないでみんなでやる」「協力体制が必要」などの意見が多かった。ただ、仕事量は減ることはないので、今後も、仕事の整理や分掌の細分化、補助員の有効な支援など、より効果的な仕事がなされるよう改善を図っていききたい。</p>	<p>B</p>
<p>10. 魅力ある園づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就園先として選択される園づくり 	<p>B</p>	<p>本年度、職員の評価が9ポイント上がり、昨年度「C」評価が「B」評価となった。それぞれの職員が努力を重ねながら取り組んでおり、園の指導を評価する保護者や、園児の成長を実感する保護者が増えてきている。意見の中に「園の良さや特徴をもっと外部に知らせることが大切」があり、今後、様々な広報を通して、本園の魅力を広めていきたい。また、職員に対しても、「これは本園の魅力」というものを共通理解する機会を多く持っていきたい。</p>	<p>B</p>

4 評価の具体的目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由	関係者評価
<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本園の重点目標「がんばりのきく子」「思いやりのある子」「あいさつのできる子」については、保育者の指導意識が高く、常に重点目標を念頭においた会話がなされている。特に「おもいやり」の項目は昨年度より向上しており、日頃の保育の中で人間関係を重視した指導がなされていることが伺える。5つの領域のうち「環境」を除いた4つでは、体力の向上や最後まで頑張る姿勢、聞く力や聞く態度の向上などいくつかの成果が上がっている。今後は、園外保育の充実を考えていきたい。 ・「体力の向上」では、各学年が日常保育の中で意図的に体力作りを繰り返しており、園児の運動遊びへの関心が深まったり、達成感を味わったりするなどの成果が見られた。この結果、自己肯定感も向上していると感じる。今後もこうした成果を根付かせるために、場を与えて、誉めて、さらに次への意欲を持たせる指導を工夫していきたい。 	<p>A</p>

5 関係者評価委員会が出された意見

(1) 指導領域「環境」について

先生方は厳しい評価をしているようだが、環境はすべて十分な状態を用意すればよいのではない。この地域の完全な環境状態を望むのではなく、足りない部分をどう補っていったら良いかを考えたい。そのためには、園外保育でも目的をもって行って、到達目標に対してどうであったかを評価すれば良い。

園から遠くへいくことだけが環境教育ではなく、園内のどんぐり拾いやイチョウの葉拾いなどでも子ども達は十分に喜んでいる。家庭ではでき

ないことを園では意図的に取り組んでおり、ビオトープや花の栽培など、先生方は意識して取り組んでいると思う。

(2) 園の重点目標や活動「5 個に応じた指導」について

「個に応じた指導」が高評価なのはいいことである。「個々を理解する」「個を大事にする」ということはすべての活動の基本である。その情報をお互いの先生方が共有しているということも重要なことである。トラブル等が発生しても、情報を共有していることで、すぐに個に応じた対応が可能になる。すべての核になっていることなので、今後も力を入れていってほしい。

(3) 園の重点目標や活動「7 保護者への対応や連携」について

園内評価は、昨年度も言ったが、保護者やその他の周りとの関係性を評価できるとよい。あいさつなどの基礎基本は園で大切に指導してくれている。その結果どうであったか、足りない点は何かを検証するとよい。評価するということは、何が目的で、何が位置づけられているのかを明確にして、それを評価すればよい。感覚的に評価すると、先生方の頑張りが評価されてこない。

(4) 園の重点目標屋活動「10 魅力ある園づくり」について

意見の中に「園の良さや特徴をもっと外部に知らせることが大切」とあったが、その通りだと思う。

例えば、この園では、行事や保育実習などで、高校生や中学生との交流がある。保育活動に若い人達が入って一緒に活動すると子どもも喜ぶ。中・高校生にとっても大きな経験となり、次につながっていくと思う。これなども特徴として大いにアピールして良いことだ。

職員も園の魅力を共通理解して、それを共通実践していくことが大切である。みんなでやることで自信につながり、それが魅力につながる。やり方は少しずつ異なっても、たどり着く方向が一緒なら魅力を共有できる。

5 次年度に取り組むべき課題

課 題	具 体 的 な 取 り 組 み 方 法
○体力の向上とたくましさの育成	・「体力の向上」は本年度も大きな成果をあげることができた。これは日常的に保育者が「運動能力の向上」を考えているからだと考える。これも本園の魅力の一つとの認識を職員で共有し、次年度は保育時間中の「体操教室」の時間をさらに増やし、本園の特徴として定着させていきたい。また、あきらめないで取り組む「たくましさの育成」も図っていきたい。
○職員の共通理解と協力体制づくり	・日常保育をする上でも、行事等を推進する上でも、園としての成果を上げるためには「職員の共通理解や協力体制」は欠かせない要素である。基本は「園児の成長のため」を念頭に、来年度も、早めの提案、分掌・学年間の共通理解、協力体制を作って取り組んでいきたい。